

(活動に取り組むメンバーたち)



緑花推進モデル事業本格スタート

大府コミュニティ緑花推進実行委員会が進めてきた「緑花推進モデル事業」の活動が本格スタートした。実施期間は今年六月から来年三月三十一日まで。九月十七日、JR大府駅西で行なわれたキックオフにはコミの各部会員や各協力団体ら約五十名が参加、深谷貢実行委員長のあいさつのあと、全員で「大府コミュニティ推進協議会」と書かれた大型プラント十五個に軽石、腐葉土などを入れ、ナデシコ、ペンタス、日野草、ケイトなど九種類の季節の花を植えた。十個を駅西、残り五個を駅前に設置、通勤する人たちの目を楽ませている。第二弾として十月十四日にビニールハウスで花の種まきを行なった。同ハウス内で維持管理をしようとした花をプランタに植え替え緑と花によるきれいな街づくりを進めるとともに健康都市づくりに一役買っていく。

緑あふれる街へ

大府コミュニティは「平成十九年度



大府市緑花推進モデル地区」に指定された(昨年度は神田、北山地区)。

この制度は大府市「緑の基本計画」に基づき、大府市の街全体を、シビックガーデン(市民の庭)とするため、地域と行政が協働により、緑と花で溢れる街づくりを行なうものです。

毎年大府市がモデル地区を指定して助成金を交付、その地区の主だった所及びその周辺を緑と花による地域の街づくりを進める。地域住民の快適な生活環境を創造し、地域住民の「心身」の健康づくりに寄与する。それと共に緑花に対する大切さと市民が参画できる街づくりの必要性を身近に感じるよ



多くの市民のご協力が必要です。当面の依頼団体としては「大府自治区」、「婦人会」、「長寿会」、「蜻蛉の会」、「ボイスカウト」、「父ちゃんソフト」、「大府中学校」、「大府小学校」、「大府保育園」、「桃山保育園」、「子ども会」、「商工会議所」、「その他の協賛団体」です。一般市民の参加もお願いします。

花と緑で綺麗な街づくり

ふれあい

大府コミュニティだより

編集発行

大府コミュニティ
推進協議会
調査広報部
事務局

大府公民館
TEL48-1007

助けあう

家庭と地域を

創造しよう

うに緑花事業を展開する。市民の心に癒しを与える街づくりを行なうことを目的に創設されたものです。

一般市民も参加

今年度までに緑花を行う場所として、「大府駅前」、「大府駅西」、「大府図書館前道路周辺」、「大府保育園」、「桃山保育園」、「大府小学校」、「大府公民館」、「大府市役所駐車場」を予定しています。

学生と市民が熱い交流

第26回大府夏まつり

ヒップホップダンス披露



盆踊りパレード

初日のメインの盆踊りパレードには大府コミュニティの文化福祉部会員や婦人会など約二百人が参加。市道のUFJ銀行交差点から同駅ロータリーまでの約二百メートルを夏まつりの横断

幕を先頭に元気よく踊りながら練り歩いた。写真①同駅前では大府小学校の金管バンドの演奏もあり、涼を求めて訪れた浴衣姿の若い女性や親子連れたちでにぎわった。途中で開会式が行なわれ、久野孝保大府市長や深谷貢会長らが「夏まつりを楽しんで下さい」

大府市の夏の風物詩「第26回大府夏まつり」(大府夏まつり実行委員会主催)が8月4、5両日の夕方、同市の中心市街地のJR大府駅前ロータリーから市道(旧県道横根大府線と同名古屋碧南線)の一部を遊歩道にして行われ約8000人の市民らでにぎわった。沿道ぞい

には夜店もずらりと並び、同ロータリーには月見、桃山など14子供会と大府保育園などが作った七夕飾り16本が飾られるなか、盆踊りパレードやヨサコイソーラン踊りなど六チーム、300人余りが熱い踊りを繰り広げた。

6チームが参加

久野市長の挨拶



と挨拶をした。櫓の周りで婦人会たちによる盆踊りが始まると一般市民たちも輪の中へ飛び入りし一緒に踊る。踊れば輪が二重、三重と広がり楽しんだ。午後八時ごろに突然の雷雨が、四十分ほど続き、途中で中止になるハプニングがあった。

手拍子や拍手で応援

二日目は午後六時からUFJ銀行前交差点で大府ばやし小唄保存会による踊りでスタート。日中、最高三十四度を記録する猛暑。暑さの余波で夕方にもむし暑さが続く中、参加者がオリジナルの衣裳と振り付けで汗だくになりながら、ヨサコイソーランや中京女子大生がヒップホップダンスを披露した。写真②リズムに乗って激しい踊りを見せ観衆から手拍子や大きな拍手を受けた。学生と市民たちの交流も大成をおさめた。

北山連による阿波踊りもあった。

塩見子供会が優勝 七夕飾りコンクール

七夕飾りコンクールの表彰式で、深谷会長から最優秀賞に若草町の塩見子供会、写真③二位は弥生子供会にそれぞれ表彰状と楯が贈られた。

中学生がゴミ 分別に大活躍

会場三ヶ所に設置されたゴミ分別所では中学生ボランティアが大人と一緒に整理に大活躍をした。写真④





参加したのは保護司、更生保護女性会、民生児童委員、婦人会、防犯協会の有志約二十人。非行防止愛のパトロール班ひまわり隊と書かれたそろいのベストを着て午後七時から一時間にわたって同

家庭教育部会
部会活動だより
非行防止を呼びかける
七、八月は愛の声かけ強化月間。その一環として部会員や各団体のボランティアがJR大府駅に立って、うちわを配り、非行防止を呼びかけた。写真



文化福祉部会

ルミナスを慰問、部会員二十五人が踊りや寸劇などを行ないお年寄りたちを楽しませた。全員がコミュニティの名前の入ったハッピを着て参加。深谷会長が「ぶっつけ本番で行なうが、楽しんで下さい」と挨拶。全員

ルミナス慰問

駅の三ヶ所で「大人が変われば子どもも変わる運動」と印字された啓発のうちわ四百五十本を通勤者や道行く家族連れたちに配布した。「みんなで愛の声を掛け合い、非行防止に務めてください」などと声を掛け呼びかけた。



九月八日大府公民館で人形劇「三匹のこぶた」が中京女子大学の学生七名により上演されました。親子連れ一〇〇名以上の観客で大盛況でした。三匹のこぶたと狼の絶妙な絡み合いで最後は「狼が丸焼けにされて食べられる」という落ちでした。

人形劇「三匹のこぶた」

で大府ばやしや寸劇を披露した。歌では「憧れのハワイ航路」をお年寄りと一緒に歌い、楽しそうな笑い声を見せていた。「おーい追っかけ音次郎」ではおひねりが投げ込まれるハプニングもあった。

第26回大府公民館まつり 「気楽に楽しめ 各催しを体験」

出会い・語らい・ふるさとの文化と創造とふれあいを高めようと毎年開かれている大府公民館まつりも今年で26回を迎えた。会場の大府公民館では各作品やイベント、バザーなど多彩な出展内容になっており、市民らでにぎわった。



開会式
正面玄関前で鷹羽委員長らによるテープカットで幕開け



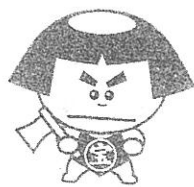
ギネスに挑戦
目かくしをして手を広げ片足で何分立っているかなア



大人の作品
老人クラブや大府陶芸クラブらによるみごとな作品がずらり並ぶ



子供会の絵
各子供会や保育園、幼稚園、あけび苑などが描いた絵を見る親子連れでにぎわった。



宝くじは
豊かさ築く
チカラ持ち。

宝くじは、広く社会に
役立てられています。

コミュニケーション部会
整備されました
コミュニケーション部会が
協働促進課
大府コミュニケーション推進協議会は、コミュニティ活動を促進し、健全な発展を図るため、宝くじの普及広報事業の一環として平成19年度コミュニケーション助成を受け、大太鼓、冷蔵庫、デジタルカメラ、プリンター、ショルダー型メガホン、防災パネル・ボール、わた菓子機、紅白幕、空気洗浄機、LED合図灯、パソコン、レーザープリンターの12品の備品を購入しました。

☎(45)6215

あの人この人

「家庭で育て、学校で鍛え、地域で磨く」

大府中学校 林克次校長

今回は、七月に公民館で講演をしていただいた大府中学校の林克次先生にお話をうかがいました。

Q 中学生のボランティアをいろいろなところで見かけますが、その意義や成果を教えてください。

A 私は「子どもは地域の宝であり、地域で育てられるもの」だと信じています。義務教育の期間というのは生涯のうちたたった九年にしかすぎないので、すから、人を育てるという点では、学校のできることに限りがあります。

こんな意味でも、中学生が地域で力を発揮する機会が与えられれば積極的に参加し、地域の方々や触れ合い、そこから人としての多くのことを学んでほしいと願っています。ですから、地域の団体などから声を掛けていただいた活動機会を生徒に紹介して呼び掛けをしています。

ただ、残念なのは「ボランティアをする」と高等学校の入学試験における内申点が良くなる」ということがさやかれていることです。もし参加の主旨がこの理由だとすれば鳥肌が立つくらいの不純さを感じます。



は、人としてこのことを信じていきたいと思っています。

Q 回覧板にありました「大中お助け隊」のことについて教えてください。

A 大府中学校区は豊かな心情と田舎性を備えた人が多いと感じています。

中学校の敷地の中には市道が通っています。ある年配の女性は「いつも通らせてもらっているの」とか、「きれいになると自分が気持ちいいから」と草を取ってくださいっています。本当に頭が下がる思いです。

生徒には世のため他人のために生きていく大切さに気付いて欲しい、このために地域の皆様のお力を貸していただきたい、こんな思いです。

十八年度の選択教科の時間の指導には、延べ六百人近くの方々へ来て助けていただきました。講師の先生

方には、生涯を学び続けようとする人として

の高貴な姿を生徒の前

にさらして

いただきました。

PTAの

皆さ方もがんばっていただいています。

生涯学習体系の中に学校教育をどう位置付けるのか、学校教育を含んで子育てにも「協働」ができるのではない

か、こんな思いです。

今後とも、ぜひ多くの方々にお助け

いただきたいと思います。

Q 中学生の時期はともな難しい年頃だと思

いますが、おとなが家庭で子どもに接するときに心がけるべきことは。

A 人が人として関わり合う、当たり前

のこのことがし難い現代社会です。あ

まりに「個」と「利」を追求してきた

結果としての今があるような気がして

います。

本場の「当たり前」って何なのか。

細々と理由付けしなくても「こんなもの

ののだ」ということがあっても良い

のではないか。

生まれた時から完成された人格は有

り得ないと思います。家庭・地域・学



校と、より多くのおとなが子どもの成長を信じて声を掛け、手を出して関わり続けたいものだと思います。おとなも子どもも「生涯」「学習」だと思ふことが必要なのではないでしょうか。

インタビューを終えて、改めて家庭・学校・地域のむすびつきの大切さを実感しました。(K)

あとかた



血液が必要な人達のために役立つならと、毎年二回ずつ献血をしてきた。初めのうちは二百ccだったのが四百ccになり、今年十月で三十三回になった。五十回を目標にしていたが、六十九歳までしか出来ないことがわかりあきらめた。残りあと数年だからそれまで献血は最後まで続けて行きたいと思っている。三十三回もよく頑張ってきたと思えば自分なりに感心した。

今年七月十二日に多回数献血協力者感謝状贈呈式が大府保健センターで行なわれた。協力者の回数を見てみるとおどろいたことに四百十回をトップに三百十回、二百七十回、二百十回、二百回と続いていた。その他にも多数の人たちが表彰された。大府市周辺の各市町の中で大府市が献血協力者が一番多いと大府市献血推進協議会の久野孝保市長は挨拶のなかで話していた。(F)